

アンモナイト



第4展示室に展示中のアンモナイト
(*Calycoceras orientale* ; 登録番号
GSJ F03237)。中生代白亜紀の中
頃の時代を特定できる種です。
直径は約 15 cm。

アンモナイトは、古生代の中頃から中生代末まで栄えた海の生物です。イカやタコと親戚で軟体動物の頭足類の仲間です。渦巻き状に巻いた殻を持ち、殻の内側は殻壁と呼ばれる仕切りでいくつもの小部屋に分かれています。この殻壁が殻と接するところは縫合線と呼ばれ、複雑な模様になっています。一般に殻の形や縫合線の模様で種が分類されます。比較的短い時間で進化して次々と新しい種の出現することが多く、種を同定することでその化石を産出した地層の地質時代を細かく決めて地層を対比していくことが可能です。

大きさは種によってさまざまで、直径が1 cm ほどのものから、1 m を越えるものまであります。

写真のキャライコセラス属のアンモナイトは、中生代白亜紀の中頃を代表するものです。殻には、肋と呼ばれる粗い筋模様があり、その上に数列のイボ状の突起が見られます。

なお、地質標本館の第1展示室を出て2階の第2展示室へと続く螺旋状の階段は、アンモナイトの渦をモチーフにしています。(地質標本館長 利光誠一)